

地方創生先行型事業 有識者評価シート

北海道 白老町

| | | | |
|------|---------------|------|------|
| 担当部署 | 農林水産課(水産グループ) | 交付区分 | 基礎交付 |
| 事業名 | 浜の活力向上支援事業 | | |

| | |
|-----------|---|
| 交付金充当額 | 11,905,756 円 |
| 事業実績 (内容) | <p>白老地区において従前水揚げの際に使用していた木製コンテナは、破損等の老朽化のため衛生状態が悪く、魚価安の原因となっていたものであり、洗浄および海水氷の活用による低音管理が容易なプラスチック製コンテナ(500箱)を更新し、品質管理の強化に取り組んだほか、漁業関係者自らが衛生管理意識を徹底し管理体制の強化を図るため、港内における衛生管理体制を定めたマニュアルを策定し、漁業者・漁協職員による研修会を開催により、関係者における意識向上に取り組んだ。</p> <p>また、栽培・資源管理型漁業の振興を図るため、漁業者・漁協によるマツカワ種苗放流およびヒトデ・ピノス貝等有害生物駆除の推進を支援した。</p> |

| KPI | | 単位 | 2014 (平26) | 2015 (平27) | 2016 (平28) | 2017 (平29) | 2018 (平30) | 2019 (平31) | 上段：目標値 下段：実績値 上段：目標値 下段：実績値 |
|-----|--------------|----|---------------|-----------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------------------------------|
| 1 | 対象魚種の水揚げ量の向上 | % | 100.00 | +1.00 -21.02 | | | | | |
| 2 | 対象魚種の魚価の向上 | 円 | 103.9 | +3.0 +20.4 | | | | | |
| 3 | | | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | |

| | |
|-------|---|
| 取組と課題 | <p>コンテナの更新・衛生管理マニュアルの策定により、港内における衛生管理体制の強化が図られたところであるが、水揚げ量・魚価向上への直接的な反映が困難であることから、質の高い衛生管理体制を今後も持続させることで、継続的な水揚げ量・魚価の向上に取り組む必要がある。</p> |
|-------|---|

| | |
|--------------|--|
| 翌年度以降の事業の方向性 | <p>策定した衛生管理マニュアルに基づき、関係者の意識向上および港内の衛生管理体制強化を継続的に進め、より質の高い水産資源の生産に取り組み、水産経営の安定化を図る。</p> |
|--------------|--|

| | | | |
|-------|--------------|--|--------------------|
| 事業の評価 | ①評価 | <p>A：取組事業が、白老町創生の推進(KPIの達成)に向け、成果が十分であった。</p> <p>B：取組事業が、白老町創生の推進(KPIの達成)に向け、相当程度の成果があった。</p> <p>C：取組事業が、白老町創生の推進(KPIの達成)に向け、成果がなかった。</p> | 総合評価 → B |
| | ②評価に係る有識者意見等 | <p>◆衛生管理面で向上しているが、水揚げ量に直接の関連性がないことから、KPIの見直しが必要だったのではないかと考える。</p> <p>◆KPI設定の根拠が不透明であり、事業の取組による実績比較は困難であると考える。</p> <p>◆衛生管理面の改善・管理マニュアル策定による関係者の意識向上等、十分な成果があったと伺える。</p> <p>◆事業内容は単純ではあるが、魚価の向上など一定の成果があった。</p> <p>◆浜での衛生管理がどのように改善出来ているのか、新聞や町広報を通じてもっと報道され、生産者と消費者の意識が近づけるようにすべきである。</p> <p>◆港内の整備環境を図ったことは評価出来る。更に漁業関係者の研修を進めることが必要と考える。</p> | |

| | | | |
|-----------------|------------------|--|--------------------|
| 事業実績を踏まえた今後の方向性 | ③今後の方向性 | <p>A：事業の成果が十分であったことから、内容の強化等さらに発展させて取り組むべき。【事業拡大】</p> <p>B：事業の成果が相当程度あったことから、内容を見直し(改善)し取り組むべき。【改善し事業継続】</p> <p>C：事業の成果が相当程度あったことから、現状どおり今後も取り組むべき。【現状どおり事業継続】</p> <p>D：事業の成果がなかったことから、事業を中止すべき。【事業中止・廃止】</p> | 総合評価 → B |
| | ④今後の方向性に係る有識者意見等 | <p>◆衛生管理体制の更なる取組と魚価(付加価値)向上に向けた取組の検討が必要と考える。</p> <p>◆漁獲量等に実質左右されるものと思われ、事業成果比較は難しい。</p> <p>◆策定したマニュアル等に基づき、継続した衛生管理体制の強化を進められたい。</p> <p>◆衛生管理の維持・向上のため、継続した事業展開が必要と考える。</p> <p>◆その時々々の自然環境の変化によって水揚げ量は変化するが、目標により質の高い水産経営に取り組むべきと考える。</p> <p>◆魚価向上の成果はあったが、水揚げ量向上に向けた事業成果が低く感じられる。今後は、水揚げ量向上への取組を強化していくべきと考える。</p> <p>◆衛生管理意識や品質管理・漁業資源の保全等多くの課題に漁業関係者自らが積極的に取り組む姿勢が大切と考える。</p> <p>◆評価B(効果が相当程度あった)は、条件等に左右されるもので、KPIとしては恒久的な観点からは評価が困難。事業従事者等の意識向上が必要と思われる。</p> | |